

令和3年度
「新しい学校推進 意見交換会」資料

【宇久小学校】【宇久中学校】

佐世保市教育委員会
新しい学校推進室

1

宇久小学校区 宇久中学校区 現在の通学区域（校区）図



2

宇久小・宇久中 近隣地図



3

各学校の現状 及び 児童生徒数の将来推計

① 現状（令和元年5月1日現在）

小・中学校	宇久小	宇久中
児童数（令和元年5月1日現在）	41人	21人
学級数（特別支援含む）	4(4)学級	3(3)学級
建築年数	50年	35年
校舎延床面積（施設台帳より）	2,545 m ²	2,857 m ²
運動場面積	約 4,800 m ²	約 3,300 m ²
敷地面積	約 9,700 m ²	約 8,500 m ²
地区自治協議会区域	宇久	宇久

※敷地面積には山林や法面（人工的な斜面）を含めておりません。

② 宇久小学校・宇久中学校の児童・生徒数の推移

再編しない場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	20年後 (2040年推計値)
宇久小学校	41名	13名前後
宇久中学校	21名	6名前後

再編した場合		
学校名	令和元年 (5月1日現在)	約20年後 (2040年推計値)
宇久義務 教育学校	62名	20名前後

4

学校再編案について

目的	<p>☆宇久小と宇久中を義務教育学校とすることによって、12年間を見通した小中高一貫教育のさらなる充実を図り、児童生徒の個性や能力を伸ばすこと</p> <p>☆宇久小の施設老朽化問題の解消</p>
再編案	<p>◎最終的には義務教育学校に統合することを目指しますが、まずは宇久小と宇久中を施設一体型の小学校・中学校とします。（校舎を整備することを想定）</p> <p>（理由： 両校は小規模校ですが、一島一小・中学校という条件から、同校種との統合が困難です。そこで、義務教育学校を目指すことで、学校全体として一定の集団規模を確保したいと考えます。</p> <p>現在、宇久小、宇久中、宇久高校は、県教育委員会と本市教育委員会の合意により、小中高一貫教育を実施し、12年間の長期的な視野に立って、地域の良さを生かした教育活動を実践しています。また、法に基づいて、宇久中を（高等学校）連携型中学校、宇久高校を（中学校）連携型高等学校とすることで、その取組を強化しています。現在の制度では、（高等学校）連携型中学校は認められているものの、（高等学校）連携型義務教育学校は認められていないことから、当分の間は、宇久小と宇久中を義務教育学校ではなく、施設一体型の小学校・中学校として、現在の教育活動の充実を図りたいと考えます。</p> <p>なお、最終的には、一つの学校組織で、より緊密な連携を図ることができる義務教育学校として12年間の教育活動のさらなる充実を目指していきます。）</p>
期待できる教育効果	<p>○義務教育学校となった場合、一つの学校組織となるため9年間を見通した特色ある教育活動を、より緊密に連携しながら行うことができます。</p> <p>○校舎を整備することで、より安全な環境の学校に通うことができます。</p>
留意点	<p>○義務教育学校に統合しても、一学年あたりの小規模化という課題が残ります。</p> <p>○義務教育学校が高等学校と連携した教育課程を特例として編制するためには、法整備が必要になります。</p>

- 学校小規模化対策、施設老朽化対策及び、一貫教育をさらに進めるため、「宇久小と宇久中を施設一体型の小学校・中学校とし、最終的には義務教育学校とすることを旨とする」ことについて。